

学部、学科、課程、教育科、専攻ごとの名称および教育研究上の目的

■建学の精神、教育理念について

学校法人折尾愛真学園は1935（昭和10）年に創立者増田孝によって創立された。学校法人の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、キリスト教に基づく人格教育を行い、誠実有能な人材を育成することを目的とする。」と記されており、4つの教育理念を堅持している。

1. キリスト教に基づく人格教育を行う。

教育の根本は人格教育であるとの信念のもと、キリスト教に基づく人格教育によって立派な人間を育てることが建学の理想である。知育偏重の教育を避け、キリスト教を土台とする精神教育により、知識と精神の調和のとれた、情緒豊かで立派な品性を備えた職業的・社会的な人の養成をめざした。「神なき知育は知恵ある悪魔を造る」という言葉がある。キリスト教教育を知育の根本に据え、神に対する「畏敬の教育」「憧れの教育」、すなわち霊育により、正しい人生観と穏健中立な知識・技能を身につけた人間の養成をめざす。

2. 専門学科による職業教育を行い有能な人材を育成する。

経済学科、商業学科を中心とした専門的職業教育により、広く豊かな教養と、実務に役立つ専門的知識・技能を身につけた人間を養成し、社会に出て直ちに役に立つ人材の育成、そして人柄もよく仕事も出来る、いわゆる「善き良心と優れた手腕」を兼ね備えた奉仕的な人材の養成をめざす。

3. 自主独立の精神を養う。

専門職業教育を身につけることにより、働く人間として経済的な自立を可能にし、さらには精神的にも独立した人材の養成をめざす。換言すれば、時代の潮流に流されない自立的な精神を備えた人間の育成をめざす。本学は他の多くのミッションスクールと異なり、日本人クリスチャンの手によるキリスト教学校として、外国の援助を受けず自主独立を貫いてきた。経済的独立は精神の独立のために必要である。そして真の独立とは、自分の力を頼む独立ではなく、神により頼み、「鼻から息の出入りするもの」（イザヤ書2章22節）により頼まない精神であることを学生に伝えることを使命としている。

4. 国際交流による国際理解教育を行う。

国際交流を通して、広く国際的視野を備えた実践力に富む人間を養成することを目指している。社会の急速な国際化が進みつつある現代にあって、国際交流による国際

理解と親善を通して、真の世界平和のために役立つ人間を養成することをめざす。創立者が敬愛した内村鑑三の有名な言葉「私は日本のため、日本は世界のため、世界はキリストのため、そしてすべては神のため」の根底に流れる精神は、個人も、国も、世界も、自分中心に生きるのではなく、お互いに「仕えあう精神」、あるいは「捧げの精神」を持って生きるという考えに立って平和な世界を作り、神の栄光を現そうということである。国際交流を通して世界の他の国々を理解し、究極的には世界の平和に貢献しようという目的で国際理解教育に努める。

■学科名称及び教育研究上の目的

経済科

教育目的

(1) 豊かな心を育てる。

毎日1時限目と2時限目の間に30分間の礼拝の時間を設け、1日の大切な時間として教職員を含めた学生全員が礼拝室に集まり5分ほどの黙想の時間を持った後、ともに讃美歌を歌い、内外より招いたさまざまな講師による聖書に基づいたお話を聞き、共に祈り、生きる意味や愛するとはどういうことか、など自分を深く見つめる時間として、また豊かな心を育てる時間として実施されている。プログラムとして音楽礼拝、学生自身の司会進行による誕生礼拝、などが行われ毎月テーマを掲げてそのテーマに沿って話がなされる。必修科目として1年次には「キリスト教学Ⅰ・Ⅱ」が開講され、2年次には「キリスト教学Ⅲ・Ⅳ」を開講し両方ともに卒業に必要な科目となっている。このように本学の教育の中心として全人格的教育の実践が行われている。

(2) ふれあいを大切にする「少人数教育」

本学の入学定員は100名であり、創立以来変わらず少人数教育を貫いてきている。平成30年度の専任教員一人当たりの学生数は21名である。教員と学生との距離は近く、毎日全員が出席する礼拝において顔を合わせるため、コミュニケーションはよく取れている。また、クラスアドバイザー制を設け、学生1人1人に面談し、きめ細かな指導を行っている。各教員の研究室はいつも開かれており、特に面会日や相談日は設けておらず、いつでも相談にのれるような体制が組まれている。月2回クラス礼拝が持たれ、学生とクラスアドバイザーが顔を合わせ、懇談の時間が持たれている。

(3) スペシャリストを育てる「専門教育」

本学の教育方針に「専門学科による職業教育を行い有能な人材を育成する」と謳われており、高度の一般教養と経済学や商学関係科目を中心にした専門職業教育に

より、広い豊かな教養と実務に役立つ専門的知識・技能を身につけた人物の養成を目指している。

本学では一般教養にあたるものを「共通基礎科目」と称しており、必修科目40単位（共通基礎科目22単位、専門教育科目18単位）選択科目22単位 合計62単位以上を卒業要件単位としている。「上級情報処理士」「情報処理士」「ビジネス実務士」「秘書士」等の資格が得られるようにカリキュラムが組まれている。財団法人日本医療教育財団認定の「医療事務講座」を開講し学生のニーズに応えている。専門職業教育を受けることにより職業人として経済的自立を可能にし、ひいては精神的にも自立した、時代の潮流に流されない自主独立の精神を備えた人物の育成を目指している。

奉仕的職業人の育成を目的として総合ゼミナールⅠ～Ⅳを必修科目として開講し、社会人基礎力の養成等を図り、キャリア支援を行っている。

(4) 情報を自由に使いこなす「コミュニケーション教育」

情報化社会を迎え情報を使ったコミュニケーション能力の向上が求められている。本学において

- ①自然言語としての語学教育に力を入れている。1，2年次を通して必修科目である英語は無論のこと第二外国語としてアジア言語（中国語・韓国語）を開講している。1年次には「国語表現法」を開講し、正しい日本語を読み、書き、話すことが出来るよう教育が行われている。また、外国人留学生のための日本語教育にも力を入れ、週4コマの授業を2年間、習熟度別に学べるようにクラス分けをして、日本語教師によるティームティーチングを実施している。卒業時には、皆の前で卒業スピーチをすることになっている。また「異文化コミュニケーション」や「コミュニケーション演習」といった科目を開設し「コミュニケーション能力」の育成に努めている。
- ②人工言語としての情報処理教育に力を注いでいる。本学に情報処理センター（2階建て）を設置し、全てのコンピュータを学内LANでつないで学生がいつでもパソコンを使ってインターネットが出来るようにし、講義課題の検索や就職情報の入手、メール交換などいつでも自由に使用できるように配慮し、学生の便益に資している。
- ③経済を読み解くツールとして、会計言語としての簿記・会計関連科目を充実させ、「簿記原理」は全学生が1年次必修科目として履修し、コンピュータ会計や税務会計も1，2年次で学べるよう選択科目として開講している。

(5) 異なる文化を理解する「国際理解教育」

本学の国際交流の始まりは早く、昭和51年より国際交流事業を開始し、諸外国

との姉妹校締結や学生および教職員の交流を行ってきた。在学中に姉妹校との間で行う3ヶ月間の「短期留学制度」があり、姉妹校での学習が本学の科目「コミュニケーション演習」の単位として認められる。また、休暇中を利用した「語学研修」や「姉妹校訪問研修旅行」などに参加することにより、「国際交流演習」の単位として認定される制度がある。また卒業後姉妹校への「編入留学」などを通して異文化理解の機会を提供している。姉妹校からも多くの留学生を迎え、居ながらにして文化体験をすることが出来る機会に恵まれている。

■ コース教育研究上の目的

商業コース

これからのビジネス社会に必要な基本的知識と共に、一般事務や販売の知識と技術といった実務を学ぶ。このコースでは、私たちに必要な生活の知恵と、文化や教養を学び、社会の福祉に関する知識を深め、「生きる力」を修得する。ビジネスの基本を学ぶことによって社会のしくみが見える。商業コースでは、市場（market）とはなにかを知ることが出来、ビジネス社会のシステムを学んで、職業やビジネスに役立つ基礎知識・専門知識を得ることが出来る。さまざまな情報を収集し、そのデータを分析するためにはビジネス全般の基礎知識と幅広い教養が不可欠である。将来職業についてビジネス活動をするためには心理学的アプローチや、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、事務処理能力が必要です。ビジネスに関する幅広い領域を全般的に学び、実践的な知識を修得することを目標としている。「ビジネス実務士」「秘書士」の資格が得られる。

[資格関連講座]・簿記検定 ・秘書士 ・ビジネス実務士 ・税務会計能力検定

観光ビジネスコース

本学が位置する北九州はアジアの玄関口である。グローバルビジネスと観光の拠点としての地理的環境を活かし、観光ビジネスコースでは一般的ビジネス知識はもちろん、旅行・ホテル・航空など観光ビジネスに関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要な技術と実務能力を養成することを目標としている。そして国内や国外の観光に関わる分野で活躍できる人財の育成を目指している。観光産業を始めあらゆるサービス産業における基本となる「ホスピタリティ（もてなし）」について学び、観光ビジ

ネスに必要な実務や技術を修得するため、授業で実際に旅行をコーディネートしたり、旅行会社でのインターンシップを体験したりといった実務的な学びを行う。観光に関する全般的な知識や、その経済的役割を学び、さらに社会的・文化的考察を通して観光を把握した上で、観光ビジネスの現場で求められる旅の企画力やコンサルティングについて学ぶ。「旅程管理主任者（国内）」「ビジネス実務士」「秘書士」の資格が得られる。

[資格関連講座]・旅程管理主任者　・秘書士　・ビジネス実務士

経営情報コース

現代社会は、コンピュータや通信ネットワークなくして、仕事ができない世界になっている。経営情報コースでは、将来企業ではたらく上で困らないように、さまざまな知識と技能を身につけることができる。各種検定試験や経済産業省の情報処理技術者試験（国家資格：基本情報技術者、ITパスポート）の受験指導も行なっている。また、所定の単位を修得すれば、全国大学実務教育協会から、情報処理士や上級情報処理士の資格が与えられる。経営情報コースで資格取得にチャレンジし、キャリアアップを図る。コンピュータの本質をひとことでいえば、「道具」である。本学の経営情報コースで学び、コンピュータを「道具」として自在に使いこなす人材を育成する。

上級情報処理士、情報処理士の資格を目指す。

[資格関連講座]・ITパスポート　・上級情報処理士　・情報処理士　・ホームページ作成検定・ICTプロフェッショナル検定　・基本情報技術者　・Excel表計算処理技能認定・ACCESSビジネスデータベース技能検定　・日本語ワープロ検定

スポーツマネジメントコース

少子高齢化の進む現代、人々の健康づくりを支える力が求められている。

スポーツマネジメントコースでは、スポーツと経営の基礎知識を修得し、社会に貢献できる人材を育成する。

スポーツ経験の有無を問わず学ぶことができ、マーケティング、経済、経営などスポーツ関連ビジネスに必要な知識やスキルを身につける。また、スポーツが人々に喜びや感動を与えるしくみを学び、それを応用することでスポーツ以外の業界でも活躍できる人材を育成する。

[資格関連講座] サービス接客検定